

## まえがき

1996年度はICU日本語教育の歴史に、一時期を画する成果がまとまった。ICUの日本語初級教科書『Japanese for College Students : Basic : 1,2,3』の刊行である。このテキストは、試用版（黄表紙1994）、（緑表紙1993）の改訂の上に成立したもので、JLPと研究センターの協力によるものである。

本書の目的と構成は次の通りである。

- ①本書は、「初めて日本語を学ぶ学生のためのもの」で、「学生として日常生活のさまざまな場面で必要な言語活動—聴き、話し、読み、書き—ができるようになること」である。その4技能を身につけるため「文法規則を学び、それを現実に機能させる練習を行い、正確かつ適切な運用能力を身につけるように編集」してある。
- ②この初級日本語は3巻からなり、各巻は10課から構成されている。第一巻は自分のことや身の回りのこと、第二巻は他人と接触する場面、第三巻は社会的な場面や公的な場面、を取り上げる。

- ③各課は、

Listening and Speaking（聴き、話し）

Grammar Notes（文法）

Reading（読み）

Writing（書き）

のセクションからなる。

カラフルな表紙は使用者の見る目を楽しませてくれる。内容の評価は利用者の判断に任せるとして、充実したものと思っている。これから世界の日本語教育界に利用されることであろう。フランスの詩人、ルイ・アラゴンは「学ぶことは誠実を胸に刻むこと、教えることは共に希望を語ること」と記しているが、この教科書によって誠実を胸に刻み、希望を共に語れることを願うものである。

1997年3月には、カッケンブッシュ・知念・寛子教授が退職され名古屋外国語大学へ移られた。「隣の者ですが」と言って研究室を訪問された教授をなつかしくしのびながら、カッケンブッシュ教授のご健康と今後のご活躍を祈りたい。

本紀要6号には論文5本を収めることができた。編集は飛田良文、中村一郎、村野良子が担当した。

1997年3月31日

日本語教育研究センター長

飛田良文